

開拓120年の節目にあたり 下川町長 谷 一之



私たちの町「下川町」は、先人たちの英知とたゆまぬ努力により生活基盤が築かれ、幾多の困難を克服し活力ある地域社会へと発展し、本年、開拓120年の記念すべき年となりました。

明治34年、岐阜県高鷲村（現郡上市高鷲町）などから入植した24戸の開拓団がうっそうとした原始林に開拓の鋏をおろしたことに始まり、豊かな森林資源と金や銅などの地下資源による産業の伸展、国鉄名寄本線の開通などをきっかけに大きく発展し、大正13年に当時の名寄町（現名寄市）から分村、独立した「下川村」として歩み出し、昭和24年には町政を施行、現在の「下

川町」となったところであります。

町政施行後は、農業・林業・鉱業を基幹産業として、昭和35年には人口1万5000人を超える町となりましたが、産業構造の変化や日本経済の高度成長に伴う若者の流出、下川鉱業の休山、JR名寄本線の廃止などにより、人口が減少し、現在では最盛期の5分の1程度までとなり、分村時を下回る人口規模となっております。

しかし、先人たちが築き上げてきた本町の基幹産業である農業・林業においては、厳しい環境にもかかわらず、現在、着実な経営が行われています。農業では、施設栽培の普及が進んでいる一方、酪農においても、規模拡大や飼料の安定供給などにより、農業生産額は増加しているところであり、林業では、循環型森林経営を基盤とし、

環境に配慮した森林経営を進める中、資源の有効活用や森林バイオマスの利用拡大により、脱炭素社会の構築を目指すとともに、本町の特色を生かした林業・林産業の振興に努めているところでもあります。

今日の礎は、自然豊かな地域資源のもと、先人たちのひたむきな熱意と不屈な精神の賜物であり、そのご苦労に對しまして、深く感謝の意を表するものであります。

このような中、先人たちへの感謝の気持ちを持ち、さらなる発展へと繋げながら次世代に引き継いでいくことが、今を生きる私たちの責務であります。

本町は、平成31年度（2019年度）を始期とする「第6期下川町総合計画」を策定し、基本構想の目指す将来像にSDGsを取り入れ、「2030年における下川町のありたい姿」として、

7項目を目標に掲げ、子どもからお年寄りまで、安心して暮らすことができる持続可能な地域社会の実現を目指しているところでもあります。

町民の皆様には、町政に對しまして一層のご理解とご協力をお願いするとともに、ますますのご健勝、ご活躍を祈念して、開拓120年の節目にあたってのご挨拶といたします。



役場庁舎窓口（昭和49年）



一の橋大火（昭和31年）



下川駅構内（昭和31年）



三菱下川鉱業所坑内（昭和50年頃）



町民スキー大会（昭和36年）



下川市街（昭和42年頃）